

開成館活用の歴史 — 資料館

修繕工事

開成館は修理をしながら、様々な用途に活用されてきた。『明治天皇聖蹟建物調査報告』によれば、昭和9年(1934)3月10日から31日の期間に原形通りに修理を行っている。開成館は昭和8年(1933)11月2日付けで明治天皇桑野行在所として国の史跡に指定されており、それを受けての修理であった。

開成館は建築以降、おおよそ公共施設としての活用がなされてきた。開成館1階は住居としても活用されたが、特定の人々への貸し出しであり、それほど荒廃はせずに済んでいた。

戦後、罹災者の他に、復員者、引揚者、転入者により深刻な住宅不足となった。郡山市は住宅不足緩和のために、市営住宅建設を進めた。旧陸軍兵舎や開成山の厩舎も住宅に転用される中、開成館も市営住宅として使用された。結果、開成館は荒廃が進み、雨漏りなども発生した。このため屋根替えの計画などもあった一方で、解体して新たにRC造りの郷土館建設などの意見もあった。

昭和33年(1958)5月14日に開成館は郡山市指定重要文化財となった。昭和32年(1957)と昭和35年(1960)に実測調査が行われている。昭和35年3月29日に福島県の重要文化財に指定された。

昭和39年(1964)10月から翌年6月まで、郡山市の委託を受けた東京大学建築学科太田研究室により調査、修理設計が行われた。昭和40年(1965)12月から翌年10月にかけて修理工事が行われた。



市営住宅時の開成館



昭和35年頃の開成館

郡山市中央図書館蔵
昭和40年に行われる修理工事の前の姿と思われる。
道に設置された「明治天皇桑野行在所碑」が開成館手前左側に設置されている。

資料館となる

開成館は修復工事を経て、昭和43年(1968)に民俗資料館となった。その後立岩家の子孫より、かつて福島県職員住宅であった建物と土地が郡山市に寄贈され、建築当時の姿に復元されて「安積開拓官舎(旧立岩一郎邸)」として、平成6年(1994)から一般公開された。また、立岩邸復元に併せて庭園や駐車場、管理事務所やゲート棟など周辺が整備され、現在の郡山市開成館の姿がほぼ整えられた。

平成9年(1997)には、牛庭原(現在の郡山市安積町牛庭)に入植した旧松山藩士族である小山家の住宅が移築・復元された。開成館内部の改修工事も行われ、安積開拓・安積疏水の歴史を伝える資料館となった。

その後、平成16年(2004)に旧鳥取藩士族で鳥取開墾社副頭取を務めた坪内元興の住宅が移築され、当時の図面のとおり復元され、郡山市開成館として4棟の建物を展示公開する形となった。



修理工事後の開成館

郡山市中央図書館蔵
昭和40年に行われた修理工事後の写真。昭和35年頃の開成館の写真に写る
「明治天皇桑野行在所碑」は開成館の手前左側に設置されていたが、右に変更されている。



赤い屋根の開成館

開成館の屋根が赤色に塗られていた時代があった。
平成18年(2006)に行われた修繕で屋根を塗りなおした際、
元々の木羽葺屋根に近い色を使用したため、現在は赤色ではなくなっている。